

三宅島の最近の地震活動

Recent Seismicity of Miyakejima Volcano

高木 朗充[1], 山里 平[2]

Akimichi Takagi[1], Hitoshi Yamasato[2]

[1] 気象庁・地震火山, [2] 気象庁火山課

[1] Seismological and Volcanological Department, JMA, [2] Volcanological Division, JMA

三宅島では活発な噴火が続いた2000年6～8月に顕著な地震活動が観測されたが、9月以降は噴火活動が低調になるとともに、三宅島周辺の地震活動は明瞭に低下した。一方、微小な地震の発生は継続している。これらの震源は精度良く決められてはいないが、おおよそ山頂火口から島内北西部にいたる、深さ数kmに求められた。また、噴出活動に伴う火山性微動は9月以降も連続的に観測されているが、噴火活動時と比べ振幅は小さい状態が続いている。11月には微動の振幅が20～30分毎に間欠的に増減を繰り返す現象がみられた。また12月以降、振幅のやや大きな震動が観測され始めている。振幅の小さい低周波地震も時折観測された。

三宅島では活発な噴火が続いた2000年6～8月に顕著な地震活動が観測され、同時に顕著な地殻変動を伴った。9月以降は噴火活動が低調になるとともに、三宅島周辺の地震活動は明瞭に低下した。9月中旬以降は有感地震の発生はなく、その後も2001年2月末現在までM3.0以上の地震は発生していない。

一方、微小な地震の発生は継続しており、1日当たり10回程度の地震が観測されている。これらの震源は観測環境の悪化のため、精度良く決められてはいないが、おおよそ山頂火口から島内北西部にいたる、深さ数kmに求められた。

また、噴出活動に伴う火山性微動は9月以降も連続的に観測されているが、噴火活動時と比べ振幅は小さい状態が続いている。11月には微動の振幅が20～30分毎に間欠的に増減を繰り返す現象がみられた。

また12月以降、振幅のやや大きな震動が観測され始めている。それらの中には、微小な空振を伴い、山頂に近い観測点だけで振幅が大きいものが含まれ、山頂火口内部での崩落に起因すると考えられる特徴を持つものもある。この震動の発生に伴って、連続微動のレベルが明らかに変化する現象も観測された。また、振幅の小さい低周波地震も時折観測された。これらの発生メカニズムはまだ明らかにされていない。